

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	2672300106
法人名	社会福祉法人みねやま福祉会
事業所名	グループホーム かえで
所在地	〒627-0111 京都府京丹後市弥栄町溝谷3581番地 (電話) 0772-65-4112

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成20年12月5日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 14

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	〇無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	〇有(15万円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1200 円		

(4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	京丹後市立弥栄病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北近畿タンゴ鉄道峰山駅から車で20分の弥栄町にあり、新築木造の平屋建てのグループホームである。ホーム内は広々としており、落ち着いたやわらかい雰囲気、居間兼食堂には大きなガラス窓を通して陽が降り注ぎ、中庭が見える。案山子コンテストへの出品など、今年は地域に積極的に出ている。また家族との情報交換にも積極的であり、広報誌の発行とアンケートにより利用者のことをもっとよく知ろうとしている。また利用者と家族の関係を支援するために、利用者の誕生日には家族に働きかけて外出に連れ出してもらったり、家での外泊を受け入れてもらったりする取り組みをしており、利用者にも家族にも好評である。管理者は赴任して1年半、コツコツと1歩ずつ進めており、自分流の運営が少しずつ実現している。20歳代から60歳代までの職員は全員常勤であり、さまざまな研修を受講し、力をつけている。朝食は毎朝ごはんとうま汁という、地元の野菜が豊富な、食べ慣れた和風献立で、家族にも試食してもらっている。利用者は認知症の維持、周辺症状の解消、要介護度の改善等が見られ、利用者同士の会話がさかんで、のびのびと暮らしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘された点として、理念の策定、運営推進会議の定期開催と充実、地域との交流を盛んにする、家族との情報交換を充実させる、カンファレンス会議を毎月行う等、多岐にわたって改善が進んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価はユニットごとに職員全員が参加してまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、家族、区長、副区長、老人会会長、民生児童委員、京丹後市保健福祉部高齢者福祉課職員がメンバーとなり、定期的に開催され、議事録が残されている。会議では利用者、家族、地域住民いずれも活発に意見を述べている。家族からの日々の様子を知りたいという意見に対して、広報誌の発行回数を増やし、間に号外を発行するなど、改善に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱や運営推進会議等で家族は意見を述べている。毎日の暮らしを知りたい、避難訓練はどうなっているのか、食事の量のコントロールはできているのか等々の意見が出され、対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	弥栄町の文化祭、花火大会、秋祭り、運動会等に、また地域の老人会「ひまわりクラブ」のサークルや行事に、積極的に参加している。近くの小学校に利用者がつくった雑巾、ペンたて、小物入れを寄贈し、小学生からお礼状が来たり、来訪してくれる。利用者にとっても喜びである。今年は利用者が袴や着物を縫った「かえで米太郎」という名前のかかしを弥栄町かかしコンテストに出し、3位になった。今後はゲストルームを地域の人に活用してもらいたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「管理より生活を」をふまえて、グループホームかえでとしての理念は「ゆっくり 楽しく いっしょに」を、職員一同で策定し、パンフレットに掲示するとともに、ホーム内にも掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホームかえでの理念をふまえて、ユニットごとに年間目標を作成し、業務に取り組んでいる。この1年間、新しい利用者と新しい職員を迎えて、暮らしを共にするなかで、お互いの距離が縮まり、良い雰囲気になり、利用者もおちついてきている。		
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	弥栄町の文化祭、花火大会、秋祭り、運動会等に、また地域の老人会「ひまわりクラブ」のサークルや行事に、積極的に参加している。近くの小学校に利用者がつくった雑巾、ペンたて、小物入れを寄贈し、小学生からお礼状が来たり、来訪してくれる。利用者にとっても喜びである。今年は利用者が袴や着物を縫った「かえで米太郎」という名前のかかしを弥栄町かかしコンテストに出した。今後はゲストルームを地域の人に活用してもらいたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価はユニットごとに職員全員が参加してまとめている。前回の評価で指摘された点として、理念の策定、運営推進会議の定期開催と充実、地域との交流を盛んにする、家族との情報交換を充実させる、カンファレンス会議を毎月行う等、多岐にわたって改善が進んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、区長、副区長、老人会会長、民生児童委員、京丹後市保健福祉部高齢者福祉課職員がメンバーとなり、定期的で開催され、議事録が残されている。会議では利用者、家族、地域住民いずれも活発に意見を述べている。家族からの日々の様子を知りたいという意見に対して、広報誌の発行回数を増やし、間に号外を発行するなど、改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	京丹後市の呼びかけにより、2カ月に1回、グループホーム集会所が開催され、参加している。社協の行っている中学生や高校生の体験学習を受け入れており、認知症の話をしている。法人で実施しているQC会議の報告会を、当グループホームでも行い、地域の人にも聞いてもらう。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	意見箱を設置したところ、毎日の暮らしの様子が知りたいという意見が入っていたので、今年は広報誌の発行回数を増やし、号外も出すようにしている。また家族にアンケートをとったところ、利用者のいままでは知らなかった面がわかったり、入居させて後ろめたい気持ちをもっているのが面会に来にくいという家族の気持ちを知ることができた。アンケートの結果は今後のケアに生かされる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や運営推進会議等で家族は意見を述べている。毎日の暮らしを知りたい、避難訓練はどうなっているのか、食事の量のコントロールはできているのか等々の意見が出され、対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間退職が2人あったが、グループホームに適切なほんわかとした職員を法人から補充してくれた。利用者は「寂しい」と言いながらも「次の人にながらばってほしい」と励ましている。重複勤務をして、引継ぎをスムーズにしている。安易な退職を防ぐために、個人的な事情に配慮して、勤務しやすいようにし、懇親会も行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人には新人向け、中堅向け、管理者向け等の系統的な研修計画があり、実施されている。外部研修は情報により、職員が積極的に受講している。資格取得にはお互いの勉強会をしており、法人は受講料を負担してくれる。とくにケアマネジャーのフォローアップ研修は出張扱いにしている。職員ごとのレベルアップは管理者と職員の半年ごとの話し合いにより、支援されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京丹後市内のグループホームが2カ月に1回、管理者交流、それ以外の月に介護職員交流会を実施しており、職員が交代で参加している。会場はグループホームの持ち回りなので、他のグループホームを見学することができ、職員に励みになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	宿泊のため利用はないが、見学や時間を過ごすなどをして、利用者に入ってもいいと思ってもらえるように支援している。また利用が始まると、利用者同士の関係に最も配慮しており、気の合う人、同じ地域の人、話の合う人を見つけて、馴染んでもらうようになっている。最初は1日いて、4、5日家に帰ったり、昼間はここで過ごして、夜は家に帰る等を繰り返して、馴染むように工夫している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	伝統的な風習、家庭料理、味付けなど、職員は利用者から学ぶことが多い。古い言葉を聞いて一緒に辞書を引いて意味を確かめる。戦争の話や子どものとき養女に出されて、親の愛情を知らないで、寂しいという利用者の話など、共に涙している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用申込により、管理者と職員が面接し、生活歴、好きなもの、家族構成、医療情報等を聴取し、個人台帳兼面接記録に残している。生活歴の情報が少ない利用者もあり、今回家族にアンケートをとり、利用者の仕事、趣味、好きな食べ物、服の好み等を聞き、いままで知らなかったことがあるので、今後生かしていくことにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用が始まると、担当職員を決め、管理者、ケアマネジャーが利用者や家族の意向を踏まえて介護計画の原案を作成し、毎月のケース会議で職員全員が検討している。介護計画の同意は、家族(契約者)だけでなく、利用者本人とも話し合い、同意してもらっている。	○	介護計画は利用者や家族の意向は当然として、アセスメント情報を反映したものにし、利用者が生活のなかで生きがいを感じられるようなポジティブプランで、具体的なものにし、職員が明確に意識できるようにすることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンス会議は毎月行い、ケース検討をしている。介護計画は半年ごとに評価し、再アセスメントし、更新や見直しを行っている。毎日の暮らしはケース記録に書かれているが、介護計画の項目に沿ったものではない。	○	ケース記録は、通常の暮らしの様子はなるべく省いて、介護計画の項目に沿って、①介護計画を実施したかどうか、②実施したときの利用者の様子、発言、表情、③それを職員がどう考えるかの3点について、記録、介護計画の評価につながるようにすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行きつけの理美容院への同行やかかりつけ医への同行をしている。ホーム内にはゲストルームがあり、家族の宿泊ができる。近くに同法人の特養がオープンするので、連携によりさらに多様な支援ができると考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医や歯科医などの、利用者のかかりつけ医への受診は家族にお願いするが、職員の同行もしている。その際にサマリー等、情報交換は口頭で、文書で、電話で、行っている。与謝の海病院の認知症専門医との連携がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、利用者を緊急搬送したとき、延命処置について意向を聴かれた家族は「してほしくない」という人が多い。管理者はできればターミナルケアをしていきたい気持ちであるが、現在明文化された方針はなく、検討中である。職員は医師や看護師のいないなか、不安な人が多い。利用者や家族はこのままグループホームにいることができるのか、不安をもっている。	○	管理者と職員が十分話し合い、基本的な方針を策定するとともに、利用者や家族の意向確認しておくことが望まれる。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	部屋のドアやトイレのドアの開けっ放しはなく、部屋に入るときのノックも守っている。トイレ誘導の声かけにも十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその日課は決まっているが、起床時間、就寝時間、食事にかかる時間等、利用者の自由である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の希望を言う利用者もおり、食材買い物は毎日利用者と職員が出かけている。朝食は毎日ごはん味噌汁であり、献立も地元の料理が並んでいる。利用者同士の関係や量を減らす必要のある利用者などの席にいつも配慮している。利用者と職員が共に食事しており、会話や笑いがある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者は毎日入っており、少ない人でも週2回以上を支援している。マンツーマンの同性介助である。ゆず湯やしょうぶ湯などの楽しみもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材買い物、下ごしらえ、盛り付け、配膳等食事の支度や食器洗いはしたい人が多いので、当番制でおこなっている。洗濯物干し、たむ、新聞を取りに行く、掃除等も利用者がしている。来客の案内や挨拶の役割の人もある。刺し子、貼り絵、学習療法、リハビリ体操等を楽しんでいる。絵本の読み聞かせや紙芝居してくれるボランティアもいる。動物訪問は利用者がことのほか喜んだ。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には買い物や散歩に毎日でも出かけている。行事としては花見、遠足、弥栄町納涼祭(花火大会)、秋祭り、弥栄町文化祭、初詣等、毎月のように出かけている。個別外出については、以前住んでいた家に同行したり、舞鶴引き揚げ記念館に行きたいという利用者を連れて行って、利用者が感激して「岸壁の母」を歌うなど、感動的な経験をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	それぞれのユニットの玄関、勝手口、居室のベランダ等々、どこからでも外部や中庭にできることができる。ユニットのしきりもない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、感知器、通報機、防火管理者の設置があり、避難訓練は毎月実施している。災害時の地域との連携は、「災害時における要援助者の避難施設としての使用に関する協定書」が法人、京丹後市、地域住民との間で締結されている。備蓄を準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量は記録が残されているが、水分摂取量は注意が必要な人の記録をとっている。毎日の献立のカロリー値や栄養バランスについても、点検記録がない。	○	利用者の水分摂取量は簡単でも記録に残すことと、献立のカロリー値と栄養バランスについての点検を1カ月に1回くらい行って記録に残すことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたホームであり、中庭やウッドデッキのベランダ、ゲストルームがあり、居間は大きなガラス窓から陽がさしこみ、明るく暖かい。居間にはこたつを置いた畳コーナーがあり、洗濯物をたたんだりしている。居間や廊下にはドライフラワーでつくった飾りや利用者や職員の写真が飾られている。利用者がみんなで作ったちぎり絵の菊の額や古着をほどいてかけた衝立など、センスの良いインテリアになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和ユニットは畳の部屋、洋ユニットは板敷きの部屋になっており、ベッド、絨毯、コタツ、整理ダンス、書類ケース、衣装掛け、冷蔵庫、書き物机、椅子、テレビ、電話等が持ち込まれている。元気に友だちと旅行していたころの写真のアルバムを見て思い出している人、家族や友人に電話をかけるためにメモ用紙に電話番号を書いて貼っている人、自作の短歌や俳句を書いて壁に掛けている人、毎日部屋を掃除するための箒とちりとりを置いている人等々、利用者の暮らしがよくわかる部屋になっている。		